

イカの精莢による苦情・相談事例

近年、輸送技術が向上し、新鮮な魚介類を手頃な値段で食べる機会が増えました。一方で、グルメ嗜好の高まりで、様々な食べ方を試み、知らないうちに寄生虫やウイルス等の感染の危険を冒しているケースも多く報告されています。

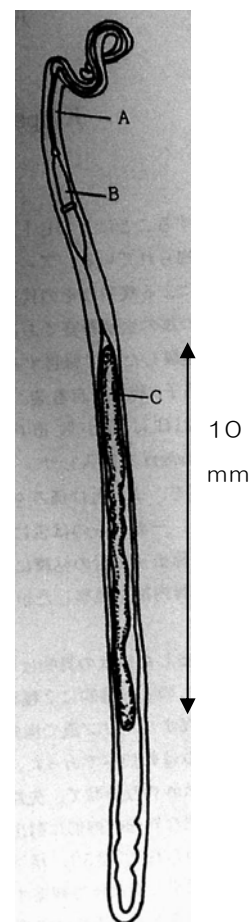
“イカの苦情=アニサキス”の構図が一般的ですが、今回は寄生虫でないイカの苦情事例を紹介します。

《イカの精莢（せいきょう）》

イカの筒状の胴の中には複雑な器官（内蔵）が詰まっています。オスは生殖器として、「精莢」といわれる白色透明の棍棒状のものをもち（右図）、この精莢をメスに刺すようにして交接します。

このため、先端がやじり状となっており、一度刺さると抜けにくい構造となっています。これを生食すると口腔内や胃に刺さり激痛を感じることもあり、また自分で抜くことも困難です。

精莢は、スルメイカ1匹で100個程度持っており、さわると動くことがあるため、寄生虫と間違えられる例もあります。



精莢の構造 ↑

A 射出管

B 粘着体

C 精子塊

直径 約 0.1mm

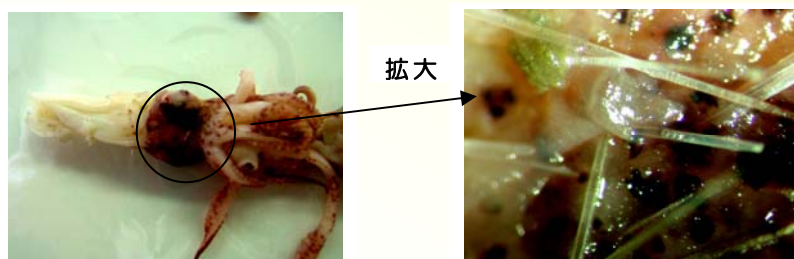
長さ 約 5～20mm

食検への相談事例

〈相談概要〉小型のヤリイカ30匹程度を自宅でさばき、ボイルしたところ、全体に無数の白い針状のものが全体に多数刺さっていた。

〈確認・検査〉ボイルされたイカ全体に5～10mmの白い針が無差別に刺さっており、本数や場所はイカによりばらつきがあった。実体顕微鏡で確認したところ、先端が鍵状で、透明なサヤ状の形態が確認された。

〈結論〉相談品はイカの精子が入った精莢であることが確認された。



イカの内臓の生食は危険！！

その他に、活魚料理店で特別に注文して内臓を食べたり、調理中の主婦が精莢をつまみ食いして、口の中をクラゲに刺されたような激痛を感じる事例の報告もあります。その他症状の重いものでは、食べたものをはき出したが、舌やくちびるの内側に白いトゲの様なものが刺さって抜けないため、すぐ医者にかかり局部麻酔をして精莢の一部を摘出した事例もあります。

イカといえばアニサキス等による寄生虫感染がしばしば問題とされますが、精莢でも傷害を引き起こすこともあることを認識しておく必要があります。